

講社紹介

本願寺山科別院犬上組二十五日講



講長 こば やし やすを
小林 康郎

本願寺山科別院犬上組二十五日講の講則には、「本願寺山科別院の護持発展に寄与する事を目的とする」と定められており、300年の歴史があるとされる由緒ある講であります。現在は、犬上組、犬上南組に分かれています。以前は犬上組一つで活動をされていました。

犬上組、犬上南組共に寺院数は27カ寺、28カ寺でほぼ同数です。犬上組は多景、花田、日夏、亀山、河瀬の五地区で構成され、各地区から顧問のご住職5名と肝煎り5名、役員、世話方の数は合計80余名の役員構成となっています。

基本の事業活動としては、次の三つで

一、 3月25日 午前 蓮師会法要

午後 永代経法要・物故者追悼法要

二、 8月25日 午後 報恩講法要

三、 11月下旬 本願寺山科別院の念仏奉仕

法要の会所は五地区の順番となり当番地区は春、秋の2寺院が会所を勤めます。

会所寺院は、法要日迄に前回の会所寺院から法宝物箱を引き取り、内陣にお飾りして住職がお勤めされます。

念仏奉仕は約80名の奉仕団を編成して、本願寺山科別院での法

話のご聴聞と共に、境内の清掃と蓮如上人御廟所の清掃奉仕活動を行っています。10数年前までの念仏奉仕は、泊りがけの行事であり大変な苦勞が伴うものでありました。特に当番地区の役員は参加人数の確保からお齋の材料である魚肉類、調味料、野菜等の諸材料の調達、別院への運搬と骨の折れる仕事となりました。お勤めの後は、皆でお齋をいただき研修会館の二階で布団を並べて寝たものです。その当時から20数年ご奉仕を続けられている熱心な御同行の方もいらっしゃいます。

三だ行事以外に最近では、平成27年11月に蓮如上人ご誕生600年記念法要に84名の団体参拝、平成28年7月に第25代専如ご門主本願寺山科別院ご巡拝に18名が参加する活動をしております。

また、山科別院を支える目的で毎年春にはお初穂料、秋には佛飯料を上納し本願寺山科別院の護持発展に寄与しております。

私たちの諸先輩方が護持し続けた山科別院、御廟所を一回でも多く参拝し、ご縁を深めて行きたいものです。



▲ 写真は法宝物を納めた長櫃2箱です。

法話

兵庫教区 揖龍東組 善導寺

本願寺派布教使 あまの しんりゅう
天野 真隆

「一人じゃない」



幼い頃の私は、「南無阿弥陀仏」というお念仏を呪文だと思っていました。今から30数年前、当時

小学生だった私は「ファミコン」というテレビゲームに夢中でした。なかでも怪物を色々な手段で倒すというゲームが大好きでした。怪物を倒す手段の一つにある言葉をとなえ、その効力によって怪物を倒すという「呪文」とよばれるものがありました。私がお念仏を呪文と勘違いしたのは、このゲームの影響であったのかもしれない。後に、僧侶となって阿弥陀さまのみ教えを学んだとき、「そうではなかった。たいへんな間違いをしていた。」と気づかされました。先日、ある一通の短い手紙からあらためて深く味わわせていただくご縁をいただきました。

その手紙とは、紙に手書きで無造作にたった三文字「あ・な・た」と書いてあるだけでした。

もし皆さんがこの手紙をいただかれたとしたら、どのように思われることでしょう。

この手紙をいただかれた方は涙を流し喜ばれ、周囲におられた方々も涙せずにはおられなかったそうです。

この手紙といえますのは、今から50年ほど前、南極越冬隊員の方がお連れ合いさんからいただかれた手紙です。

南極越冬隊は、南極地域観測隊の越冬部隊のことです。

南極地域観測隊は通常南極観測隊と呼ばれ、南極大陸の天文・気象・地質・生物学の観測を行うために日本が南極に派遣する調査部隊です。

隊は、夏隊と越冬隊の二部隊で構成され、越冬隊の補給はたった一回のみしか行われません。

現在の昭和基地では日本とあまり変わらない生活ができると伝えられておりますが、50年前はまさにいのちがけの厳しい生活であり

ました。

従いまして、隊員の方々には日本に残して来た家族の方から、打電されてくる電報「手紙」こそが、いのちの支えでありました。電話も郵便もなく、通信手段は唯一電報のみです。

しかし、費用は家族負担ですので、文字数を多く使用することや、頻繁にやりとりすることもままなりません。そこで彼女が考えに考えて選ばれた言葉こそが、この三文字なのです。

この三文字には、幾つも続く彼女の言い尽くせない膨大な思いが込められているのです。

「あなた、お元気でしょうか・・・」

「あなた、家族は元気です。」

「あなた、どうぞ無事にお帰えりください」

相手を思う気持ちが満載されている三文字です。

私はこの三文字の「手紙」を六字の「南無阿弥陀仏」と聞かせていただきます。

阿弥陀さまは私に、「決して一人ぼっちにはしない。そのためにいつでもどこでもどんなときも一緒にいる。ひとりぼっちにしないようにはたらいっているからね」と、南無阿弥陀仏のお念仏となつて、この私を喚び続けてくださっています。私たちが称えさせていただいているお念仏は決して呪文ではありません。阿弥陀さまの慈しみの心・はぐくみのはたらき、お慈悲いっぱいのはたらきそのものなのです。

私たちは日常生活をすごしておりますと、いろいろな出来事に遭遇いたします。そしてその出来事にふりまわされながら生きています。そのためなかなか阿弥陀さまのお心に気づけずにあります。

そのような私たちが仏さまの私にかけられている願いを、様々なご縁を通して聞かせていただくのであります。

手紙を心の依りどころに精いっぱい職務に励まれた隊員のように、阿弥陀さまの「願い」と「はたらき」を知らされたこの私も、毎日の日暮らしを大事にしたいと思います。